



科学技術・イノベーションへの 取組について

令和8年 4月23日
文部科学省 科学技術・学術政策局

第7期「科学技術・イノベーション基本計画」のポイント

<現状認識>

科学技術・イノベーションを巡る情勢

- ・ 基礎研究から社会実装までの加速度的短縮と「科学とビジネスの近接化」
- ・ 破壊的技術を巡る実装競争の激化
- ・ 科学技術・イノベーション政策の「安全保障化」と戦略技術の囲い込み
- ・ AIと科学の融合による研究開発パラダイムの転換
- ・ 国際的な科学技術人材の獲得競争の激化

我が国の課題

- ・ 研究力の低下
トップレベル論文数指標の国別ランキング下落：
4位(2000年初頭)→13位(2021-2023年)
博士号取得者数が横ばい：1.5万人(2022年度、米中の1/5以下)
- ・ 研究開発投資の伸び悩み
官民研究開発投資額：20.4兆円(2023年、米中の1/4以下)

<目指すべき未来社会>

- ・ 科学技術・イノベーションの強力な推進により、新たな技術領域における成果創出が進展し、持続的な経済成長が確保され、更なる科学技術・イノベーションを生み出す好循環を作り出し、様々な社会課題解決への道筋が提示されるとともに、国家安全保障が確保されている「豊かで安全・安心な社会」
- ・ 誰もが心身ともに「豊かで」「活力があり」「希望にあふれた」人生を送ることができる、一人ひとりの多様なwell-beingにチャレンジし、実現できる社会

<第7期基本計画の方針>

科学技術・イノベーション政策の転換

- ・ 科学研究と社会実装の一体的推進
- ・ 国家安全保障政策との有機的連携の強化
(デュアルユース技術を含む先端技術の開発研究等の推進)
- ・ 科学技術外交を国家戦略として位置付け

科学技術・イノベーション推進システムの刷新

- ・ ヒト：世界標準の人材システムの構築
(高度な専門性を持った人材が行き交う環境を整備)
- ・ カネ：挑戦とイノベーションを支える投資と成果の好循環
- ・ モノと情報：知と価値を創出する共用基盤の高度化
(モノの「共有」という価値観、開かれた研究・実装インフラの形成)

科学技術を国力の源泉に
イノベーションを生み出すための日本全体の社会システムの
再構築を目指す

トップレベル論文数指標
世界第3位へ

第7期基本計画の6つの柱

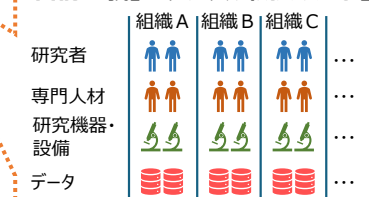
官民の研究開発投資の拡充
政府目標：60兆円※
官民目標：180兆円

※従前の考え方に基づく45兆円に、多様な財源や政策ツールを加えた目標。

- ① 知の基盤としての「科学の再興」
- ② 技術領域の戦略的重点化
- ③ 科学技術と国家安全保障との有機的連携

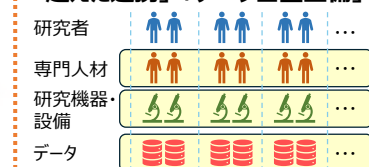
- ④ 産学官を結節するイノベーション・エコシステムの高度化
- ⑤ 戦略的科学技術外交の推進
- ⑥ 推進体制・ガバナンスの改革

現状の課題として、「縦割り」・
「自前主義」・「デジタル転換の遅れ」



推進システムの刷新

「レイヤー構造」・「分野・組織を
超えた連携」・「データ基盤整備」



目指すべき姿

科学の再興
=
新たな「知」を豊富に生み出し続ける状態の実現
我が国の科学力、基礎研究力の**国際的な優位性を取り戻す**

要素(条件)

i. 新たな研究分野の開拓・先導

ii. 国際的な最新の研究動向の牽引

iii. 国内外や次世代が魅力的に感じる環境の持続的な発展・整備

実現するために必要な取組と目標・集中的に取り組む事項

I. 研究システムの刷新

I - (1) 我が国全体の研究活動の行動変革(支援の仕組み・規模の変容)

① 新たな研究領域の継続的な創造

⇒ **新たな研究領域(新興・融合領域)への挑戦を抜本的に拡充**
目標①: 挑戦的・萌芽的研究や既存の学問体系の変革を目指す研究への機会の拡大(若手を中心とした挑戦的な研究課題数) : 2倍

② 国際ネットワークへの参画

⇒ **日本人研究者の国際性の格段の向上**
目標②: 日本人の海外派遣の拡大: 累計3万人(研究者)、38万人(学生: 2033年目標)

③ 多様な場で活躍する科学技術人材の継続的な輩出

⇒ **多様な場で活躍する科学技術人材の継続的な育成・輩出**
目標③: 博士課程入学者数・博士号取得者数の拡大 2万人

④ 時代に即した研究環境の構築

⇒ **AI for Scienceによる科学研究の革新**
目標④-1: 研究におけるAI利活用の拡大
(総論文数に対する全分野でのAI関連論文数の割合): 世界5位
⇒ **研究環境の刷新**
目標④-2: 研究設備の共用化率 30%

I - (2) 世界をリードする研究大学群の実現に向けた変革

⑤ 研究大学群の本格始動・拡大

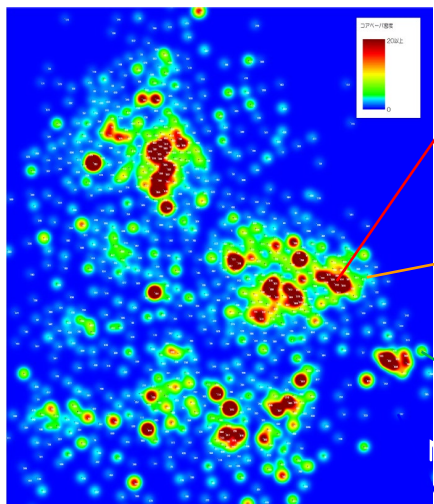
⇒ **挑戦的な研究やイノベーションの持続的な創出に向けた研究大学群等の形成**
目標⑤: 以下のような先導的な研究環境の確保により研究時間割合50%以上等を実現する研究大学: 20大学以上

II. 大学・国研等への投資の抜本的拡充

⇒ **基盤的経費や基礎研究への投資の大幅な拡充**
(文部科学省をはじめとする様々な府省庁・民間からの基礎研究への投資の推進)

I - ① 新たな研究領域の継続的な創造

サイエンスマップ 2020 (世界)



(注1) クラリベイト社 Essential Science Indicators (NISTEP ver.)、Web of Science XML (SCIE、2021年末バージョン) を基に集計・分析し、可視化 (ScienceMap visualizer) を実施。
 (注2) 2015年～2020年に発行された Top 1%論文を分析に用いて領域を抽出。

コンチネント型 (継続性があり関連研究の多い成熟領域)

- 大規模領域 (領域全数の約 2 割)
- 研究領域を構成している
Top 1%論文の入れ替わりが遅い
- 他領域との関与：強、継続性：高

ペニンシュラ型

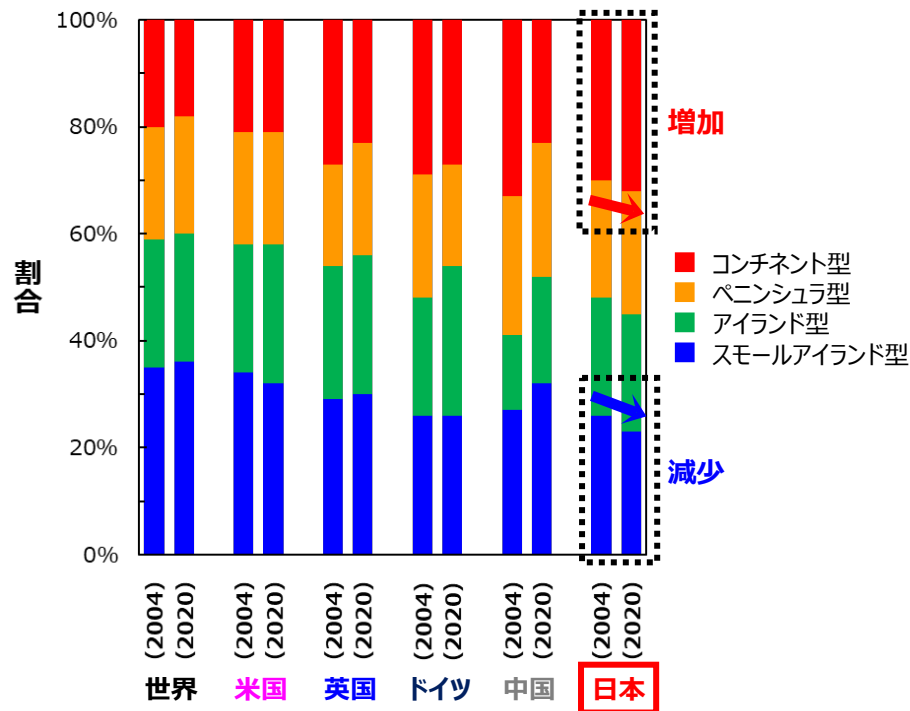
- 中規模領域 (領域全数の約 2 割)
- 研究領域を構成している
Top 1%論文の入れ替わりが中程度
- 他領域との関与：強、継続性：低

アイランド型

- 中規模領域 (領域全数の約 2 割)
- 研究領域を構成している
Top 1%論文の入れ替わりが中程度
- 他領域との関与：弱、継続性：高

スモールアイランド型 (取り組んでいる研究者が少ない新興領域)

- 小規模領域 (領域全数の約 4 割)
- 研究領域を構成している
Top 1%論文の入れ替わりが速い
- 他領域との関与：弱、継続性：低



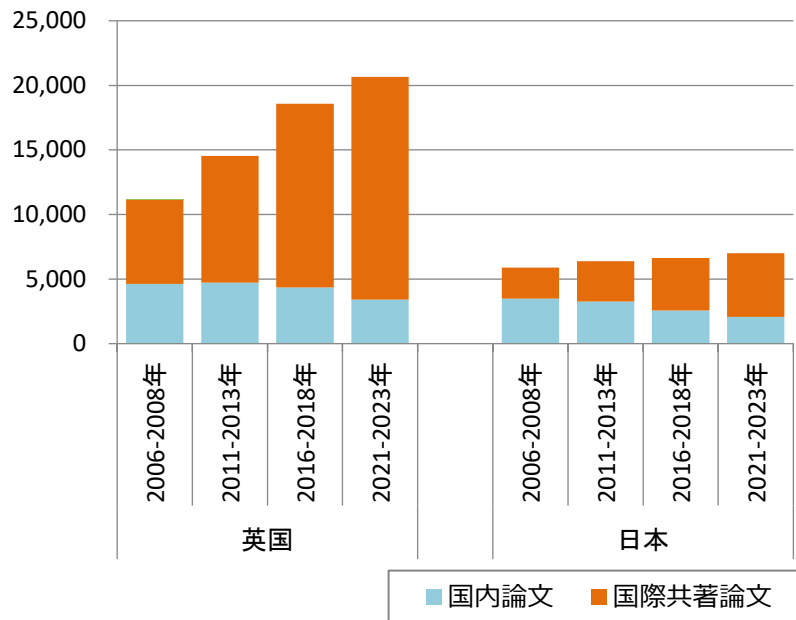
文部科学省 科学技術・学術政策研究所「サイエンスマップ2020」
 (NISTEP REPORT No.196) を基に作成

○サイエンスマップでは、**成熟領域はコンチネント型、新興領域はスモールアイランド型**として出現する傾向
 ○日本はコンチネント型が増え、スモールアイランド型が減っており、**研究テーマの多様性が低下・硬直化**している可能性

➡ **基礎研究への投資の大幅な拡充、若手研究者を中心とした新興・融合研究の促進など、新たな研究領域への挑戦の抜本的な拡充**

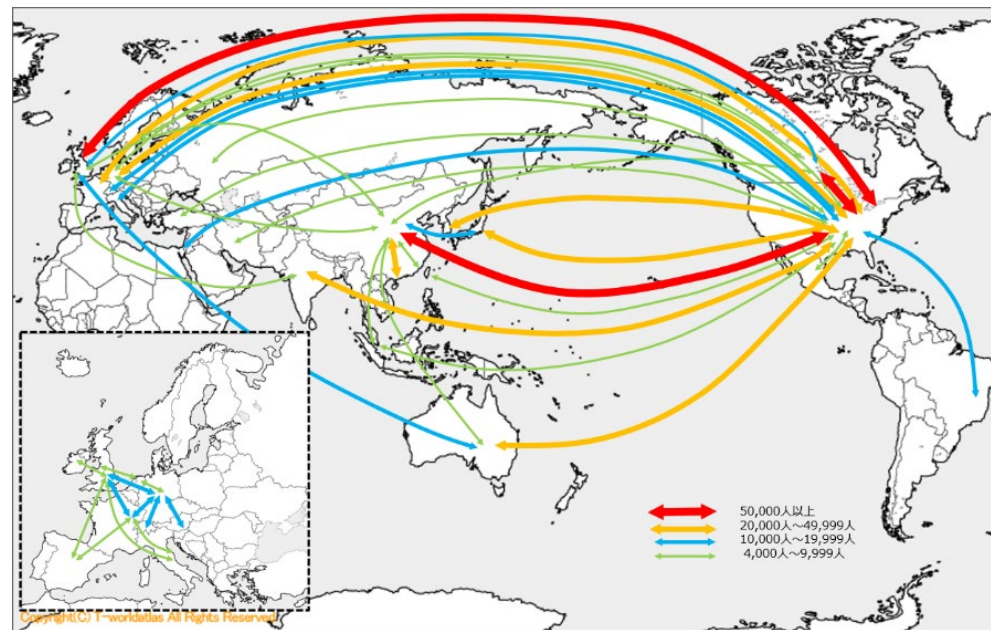
I-② 国際ネットワークへの参画

TOP10%論文における国際共著論文数



文部科学省科学技術・学術政策研究所
「科学研究のベンチマーキング2025」（2025年8月）

世界の研究者の主な流動



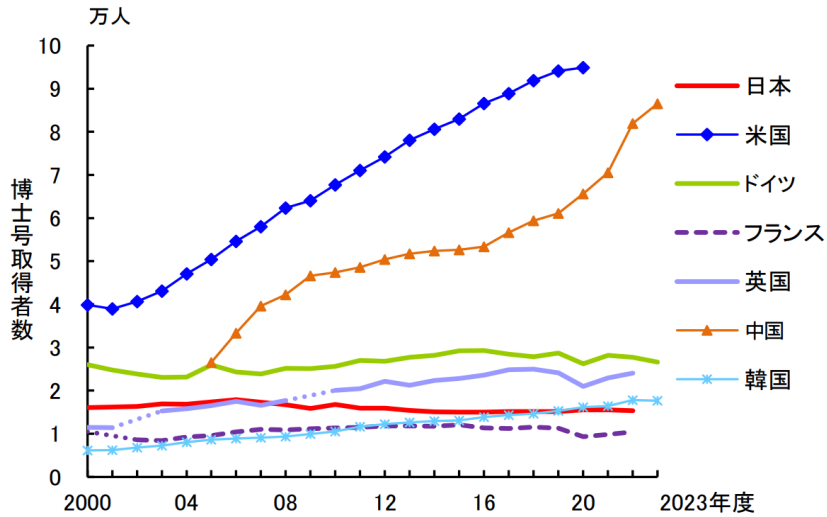
※ 矢印の太さは二国間の移動研究者数（2006～2016）に基づく。移動研究者とは、OECD資料中“International bilateral flows of scientific authors, 2006-16”の“Number of researchers”を指す
※ 本図は、二国間の移動研究者数の合計が4,000人以上である矢印のみを抜粋して作成している。
出典：OECD “Science, Technology and Industry Scoreboard 2017”を基に文部科学省作成

- 国際共同研究が少ない
- 他国との人材流動が少なく、国際頭脳循環の輪に入っていない
- 派遣研究者総数は回復傾向にあるものの、最盛期の平成30年度の約60%

➡ 日本人研究者の海外派遣や国際共同研究の強化を通じた国際頭脳循環の強化など、日本人研究者の国際性の格段の向上

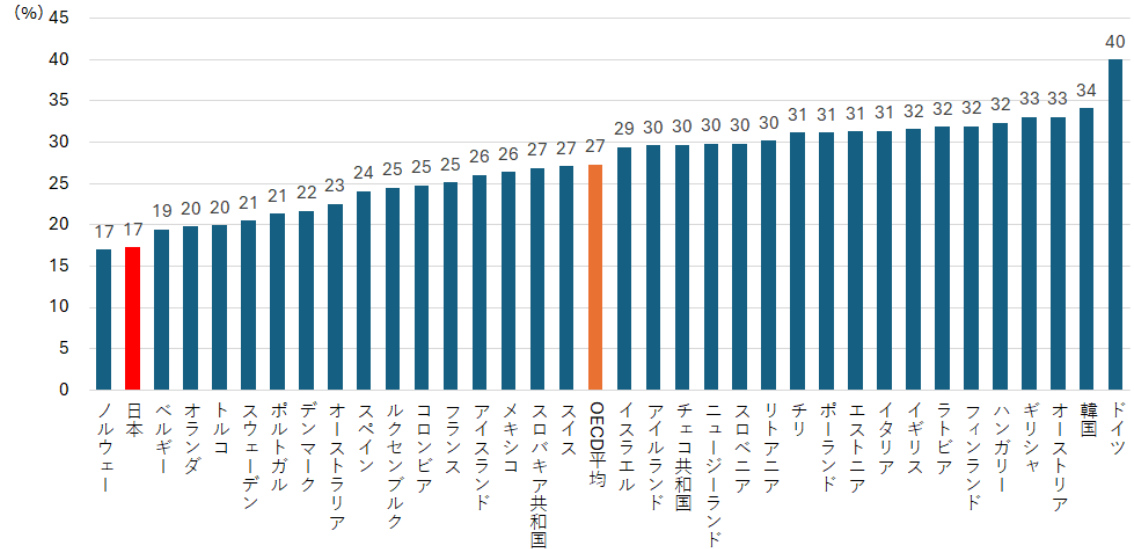
I - ③ 多様な場で活躍する科学技術人材の継続的な輩出

主要国における博士号取得者数の推移



科学技術・学術政策研究所（2025）『科学技術指標2025』

大学学部入学者に占める理工系分野の入学者の割合



OECD.stat *New entrants by field* により作成。データは2019年時点

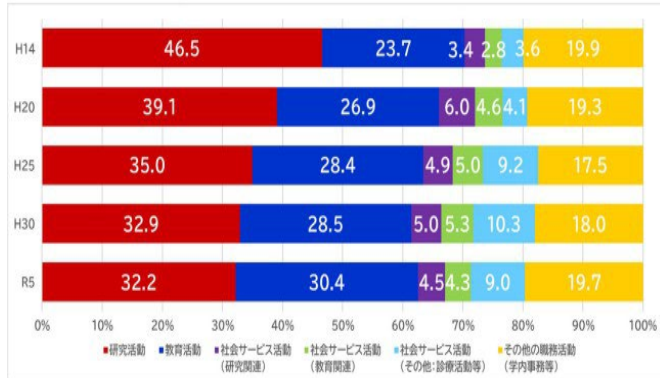
○諸外国が増加している中、**博士号取得者数の伸びが低迷**

○大学の理工系入学者の割合は諸外国よりも低い

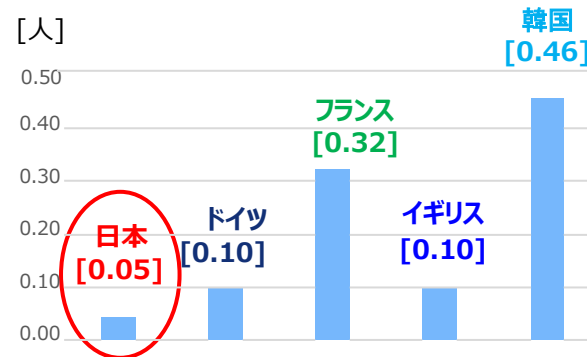
- ➡ ● 優秀な博士課程学生への経済的支援や、高度専門人材の処遇向上・活躍促進などによる**多様な場で活躍する科学技術人材の継続的な育成・輩出**
- ➡ ● 産業構造の変化を見据え、将来的に必要な**産業革新人材の育成に、産業界からの投資を得ながら、官・民が連携して支援**

I - ④ 時代に即した研究環境の構築

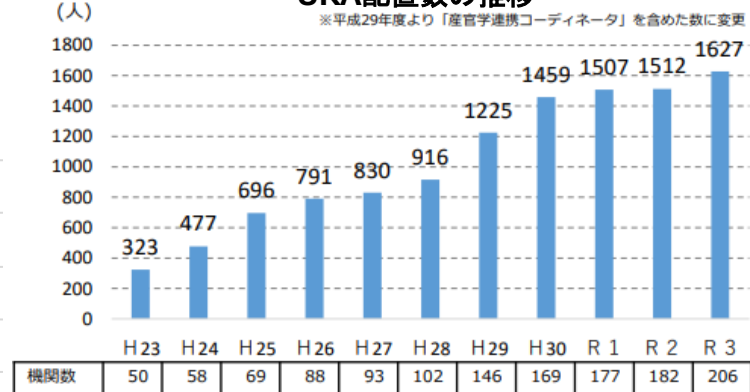
図表 17 大学等教員の職務活動時間割合の推移



大学の研究者一人当たりのテクニシャン数



URA配置数の推移



文科省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」について

https://www.mext.go.jp/content/20250418-mxt_chousei01-000040124.pdf

日本は2021年、韓国は2020年、ドイツ及びイギリスは2019年、フランスは2018年のデータ。科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2022」を基に加工・作成

- 様々な科学技術分野において、仮説生成からそのシミュレーション、実験、データの解析までの科学研究の全過程にAIが組み込まれる「AI for Science」が急速に拡大
- 教育活動および職務活動に時間を取られる中で、年々**研究活動の時間が減少。研究時間の不足が研究パフォーマンス向上の制約**と感じている研究者が多い
- 大学の研究者一人当たりの**テクニシャン数は主要国と比較して少ない**。研究者を支える技術技能系職員数は40年前の半分以下であり、URAも未だ少数

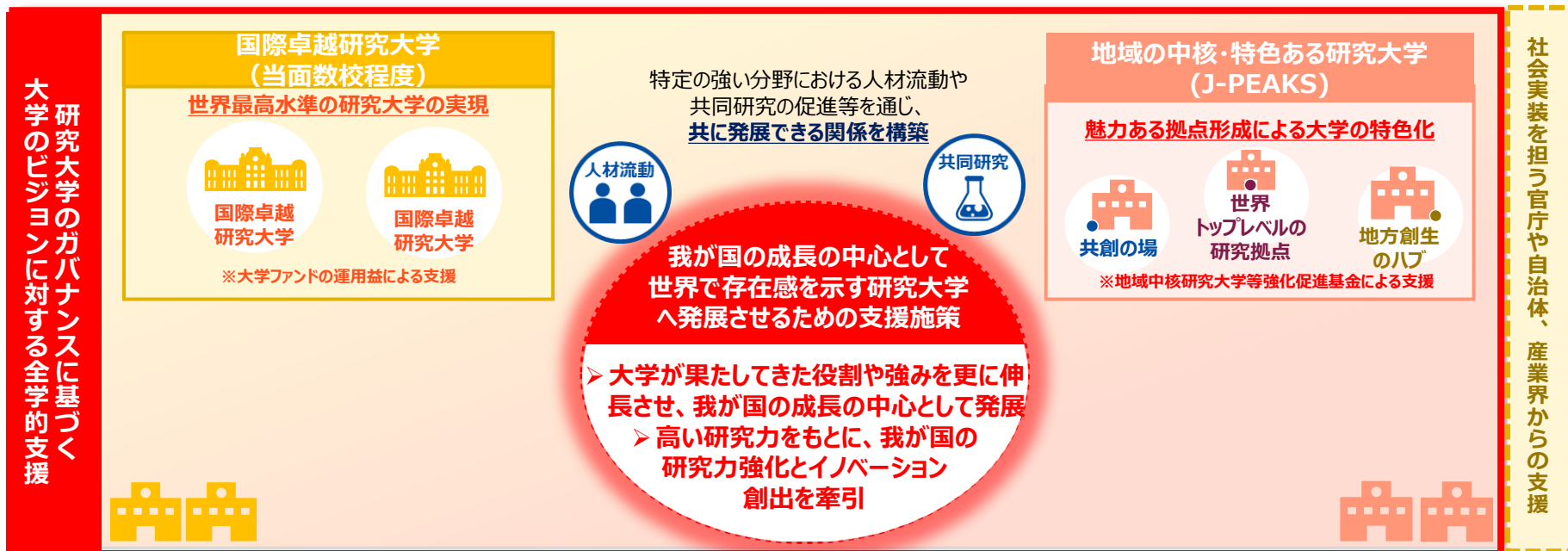
- ➡ ● AI for Scienceによる科学研究の革新
- ➡ ● 研究環境の刷新（機器共有（コアファシリティ化）・テクニシャン・URA等支援人材等）

I - ⑤ 研究大学群の本格始動・拡大

大学の経営力・研究力強化に向けた全学支援

文部科学省 科学技術・学術審議会
大学研究力強化部会（26.2.17）資料より一部改変

国際卓越研究大学やJ-PEAKSに加え、**高い研究力を持つ大学を、我が国の成長の中心として世界で存在感を示し、将来的には世界と伍する研究大学へと発展**させるべく、必要な方策を検討する必要がある。



※国際卓越研究大学

- ・東北大学（令和7年4月に計画開始済み）
- ・東京科学大学（令和8年4月に計画開始予定）
- ・京都大学（最長で1年間の磨き上げの上で計画開始予定）
- ・東京大学（継続審査中）

※J-PEAKS 25大学

■令和5年度採択

北海道大学・東京農工大学・東京芸術大学・慶應義塾大学・千葉大学・金沢大学・信州大学・大阪公立大学・神戸大学・広島大学・岡山大学・沖縄科学技術大学院大学

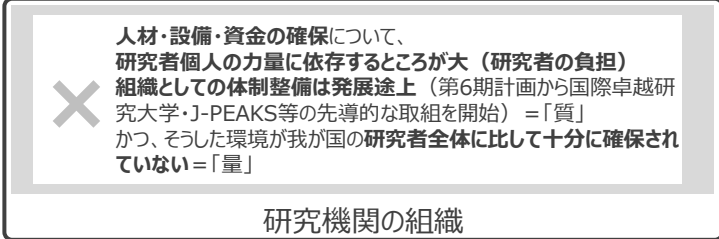
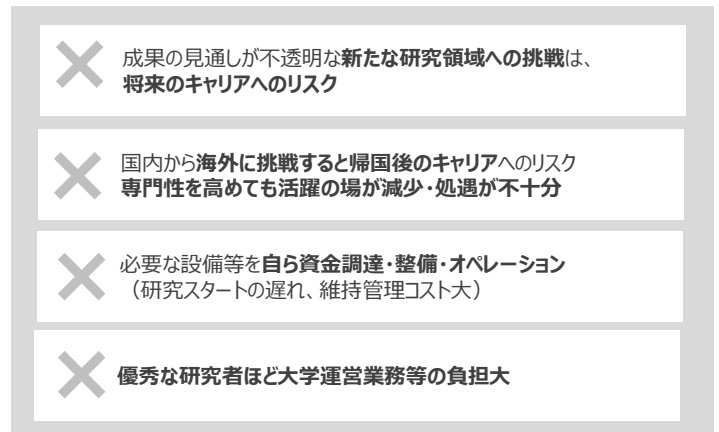
■令和6年度採択

弘前大学・山形大学・横浜市立大学・藤田医科大学・新潟大学・長岡技術科学大学・山梨大学・立命館大学・奈良先端科学技術大学院大学・徳島大学・九州工業大学・長崎大学・熊本大学

研究システムの刷新・組織の機能強化（イメージ）

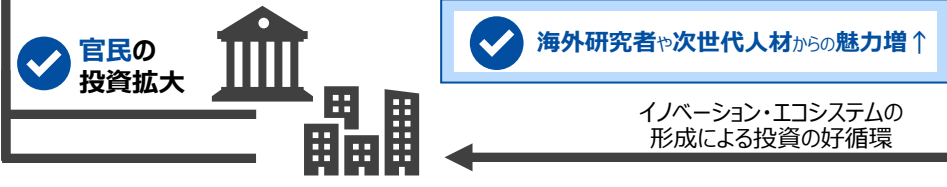
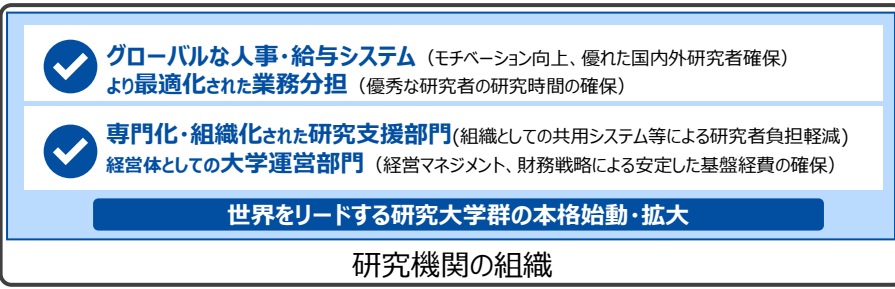
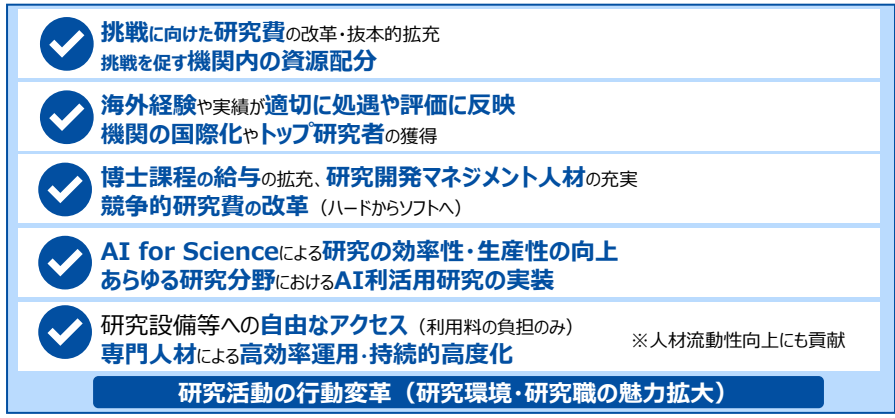
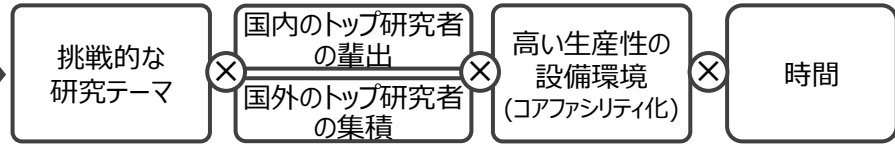
現状

- 意欲的な研究者が挑戦を躊躇、研究者個人の力量に多くが依存（行動が損に見える構造的問題）
- 研究者を支える研究大学群が発展途上



第7期基本計画期間中に実現する姿

- 国の研究費の変革と研究大学群の本格始動・拡大によって一体的に研究者の意欲・挑戦を後押し（挑戦する者が報われる仕組み）
- 優れた国内外の研究者の輩出・集積、それを可能にする組織



挑戦的研究への重点化 評価手法の見直し

海外派遣等、国際性の格段の向上

人的投資の抜本的拡充

研究基盤の刷新・AI4S・コアファンシリティ化

経営マネジメントの高度化

研究活動



研究機関



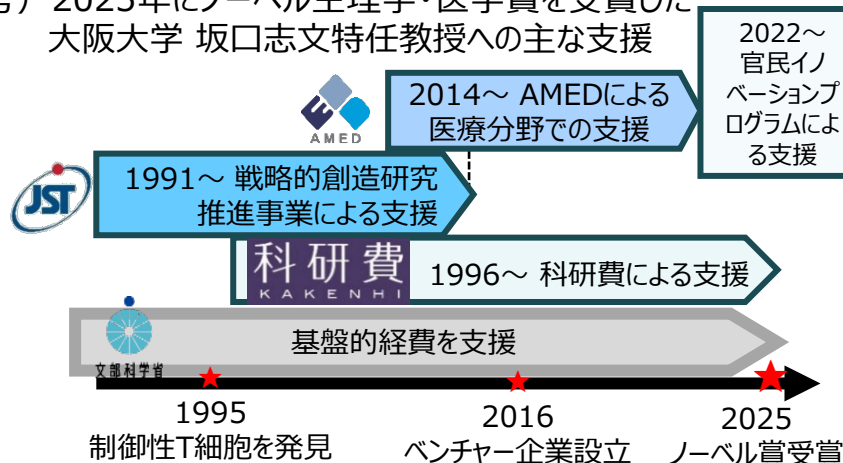
Ⅱ 大学・国研等への投資の抜本的拡充

研究費の構造

○インパクトのある研究成果の創出のためには、自由な発想に基づく**基礎研究から、応用研究・開発研究、さらには社会実装までの重層的かつ相互補完的な支援**（以下①～③）が重要

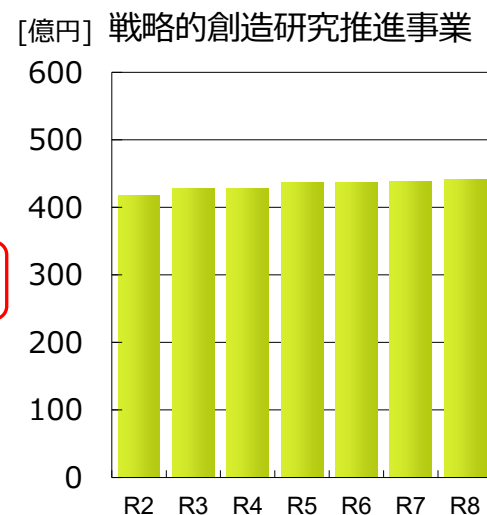
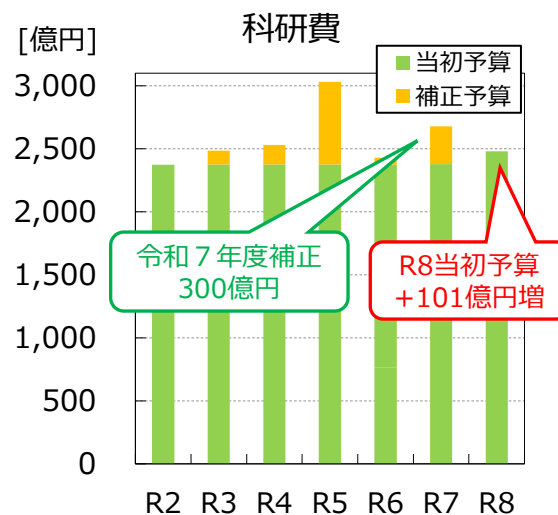
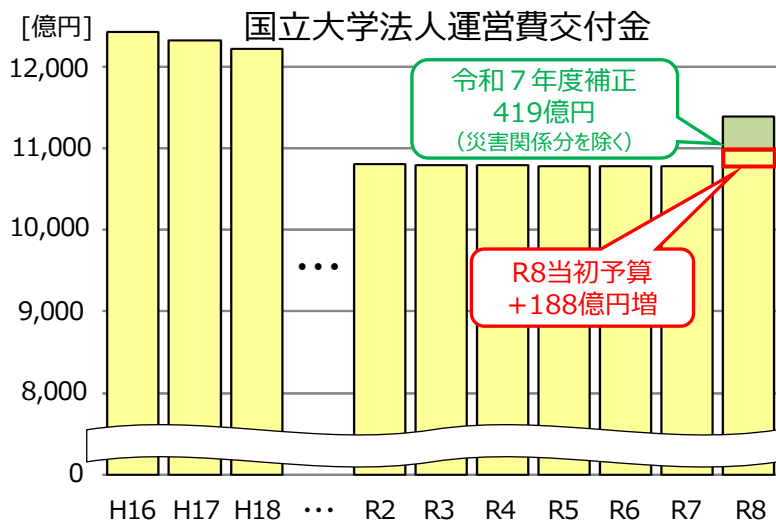
- ① 国立大学法人運営費交付金などの**基盤的経費**による支援
- ② **科研費、戦略的創造研究推進事業**等による**基礎研究**への支援
- ③ 実用化を目指した応用研究・開発研究への支援、さらには産学連携やスタートアップ等を通じた**社会実装**への支援

（参考）2025年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大阪大学 坂口志文特任教授への主な支援



国立大学法人運営費交付金や基礎研究への支援の状況

- 日本の**科学技術関係予算全体**は、近年、補正予算での措置を中心に**増加傾向**。
- 一方で、**国立大学法人運営費交付金は減少が続いたのち、同額程度の予算で推移**。**基礎研究への支援に係る科研費等の予算額も、長期にわたり横ばい**。
- そのような中、**令和7年度補正予算及び令和8年度当初予算では増額**。
- 引き続きの**支援強化**とともに、**様々な府省庁や民間からの基礎研究等への投資の促進**が重要。



文部科学省における今後の取組の方向性

- 先端科学が国の社会経済の発展や経済安全保障に直結し、国力の源泉として「科学」の重要性が格段に高まっている中、第7期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえ、「科学の再興」に取り組むことが急務。
- このため、**基礎研究への支援の強化を図るとともに**、関係府省等と連携し、文部科学省以外の様々な府省庁や民間からの**基礎研究・人材等への投資を促進**していく。
- 具体的には、
 - ・ **基盤的経費である国立大学法人運営費交付金や、科研費を含む基礎研究への投資の大幅な拡充**、若手研究者を中心とした**新興・融合研究の促進**
 - ・ **日本人研究者の海外派遣**や国際共同研究の強化を通じた**国際頭脳循環の強化**
 - ・ 基礎研究を含め**新たな挑戦や国際連携等を通じた先導的研究、AI高度研究人材育成**、それを支える研究インフラ構築等を通じた、**AI for Scienceの推進**
 - ・ 先導的な研究環境を実現し、産業競争力強化にも貢献する**研究大学群の形成に向けた更なる支援策の充実**
 - ・ 成長戦略の重点分野や国家安全保障を含め国家的課題に対応するための**新たな産学官協働プラットフォームの構築など、国立研究開発法人の機能強化**

に関係府省と連携して取り組み、我が国の研究力の抜本的強化等を通じた、「**新技術立国**」、さらには「**強い経済**」の実現を目指す。



文部科学省

參考資料

科学の再興に向けて 提言 -「科学の再興」に関する有識者会議 報告書- 【概要】



文部科学省

近年の国際社会や社会・経済の情勢変化

➢ 科学とビジネスの近接化、急速な実用化・社会浸透 ➢ 国際秩序の不安定性 ➢ 研究開発投資や先端科学競争の激化 ➢ 気候変動、人口減少社会 等

「科学」の今日的意味合い

➢ 先端科学の成果が**短期間で社会を変えるほどのインパクト**。勝者総取りの可能性。

変動する社会を見据えた戦略性

不確実な未来に向けた多様性

・我が国の自律性・不可欠性、社会課題対応 ・すそ野の広い**研究の多様性、多様な高度人材**

➢ 先端科学が国の**社会経済の発展**や**経済安全保障**に直結。科学は**国力の源泉**。

「科学の再興」全体像

➢ 日本に、世界を惹きつける優れた研究者が存在する今こそ、**科学を再興し、科学を基盤として我が国の将来を切り拓く**

「科学」の現況

➢ **ノーベル賞受賞者の継続的な輩出**

➢ 一方で、

- ・研究時間の減少、研究者数の伸び悩み
- ・大学部門の研究開発費の停滞・諸外国との差の拡大
- ・Top10%補正論文数の減少と相対的低下（2000年以降：4位→13位）
- ・民間からの研究費の海外トップ大学との差の拡大

科学の振興が結実したノーベル賞等



制御性T細胞 (Treg細胞)発見 (1995~) 坂口志文氏

<https://www.osaka-u.ac.jp/news/topics/2025/10/06001-2>



多孔性金属錯体 (MOF) 開発 (1992~) 北川進氏

<https://kuis.kyoto-u.ac.jp/jp/profile/khtogawa/>

科学の再興 とは

= 新たな「知」を豊富に生み出し続ける状態の実現
我が国の基礎研究・学術研究の国際的な優位性を取り戻す

【具体的なイメージ】

- ・日本の研究者が、アカデミアはもとより**各国の官民のセクターから常に認識**
- ・優秀な人材が日本に集結する**ダイナミックな国際頭脳循環の主要なハブ**に

<必要要素> i. 新たな研究分野の開拓・先導 ii. 国際的な最新の研究動向の牽引 iii. 国内外や次世代が魅力的に感じる環境の発展・整備

【主な中長期的(2035年度目途)なモニタリング】 ➢ 日本への注目度 (Top10%補正論文数の状況 (英独と比肩する地位へ) 等)

➢ 研究環境のグローバルスタンダード化 (研究者や職員等の給与の民間・国際比較 等)

第7期基本計画 (2026~2030年度) において迅速かつ集中的に取り組み、トレンドを変えていく事項

個人から、組織・チーム力へ、総合力へ ~研究システムの刷新・組織の機能強化による全ステークホルダーのマインドチェンジ~

我が国全体の研究活動の行動変革(国の支援の仕組み・規模の変革)

① 新たな研究領域への挑戦の抜本的な拡充

挑戦的・萌芽的研究や既存の学問体系の変革を目指す研究への機会の拡大(若手を中心とした挑戦的な研究課題数) : **2倍**
※6,500件程度(2024年度) 科研費、創発、戦略事業の関係研究課題数

② 日本人研究者の国際性の格段の向上

日本人の海外派遣の拡大: **累計3万人**(研究者)、**38万人**(学生:2033年目標) ※3,623人(2023・中・長期派遣研究者) ※17.5万人(2019年度・長期及び中短期留学者数を合計した値)

③ 多様な場で活躍する科学技術人材の継続的な育成・輩出

博士課程入学者数・博士号取得者数の拡大: **2万人** ※14,659人(2020入学者実績)、15,564人(2020取得者実績)
人材に対する資本投資の拡充

④-1 AI for Scienceによる科学研究の革新

研究におけるAI活用面の拡大(総論文数に対する全分野でのAI関連論文数の割合) : **世界5位**
※2024年世界5位: 9.5%(米国)、日本: 7.4%(世界10位)

④-2 研究環境の刷新 研究設備の共用化率: **30%** ※現状、20%程度

世界をリードする研究大学群等の実現に向けた変革

⑤ 研究大学群の本格始動・拡大

挑戦的な研究やイノベーションの持続的な創出に向けて、法人が自律的に経営戦略の構築・実装を進め、**以下のような先導的な研究環境の確保により研究時間割合50%以上等を実現する研究大学: 20大学以上** ※教員の研究時間割合: 32.2% (2023年FTE調査)

- ・挑戦を促す機関内の資源配分ができる体制
- ・グローバルな教員評価基準の構築
- ・外国人研究者の受入れ体制整備
- ・博士課程学生への経済的支援
- ・組織・機関を超えた共用システム*の構築
*設備・機器、人材、仕組み、データ等
- ・諸外国並みの研究開発マネジメント人材等の確保
- ・諸外国並みの官民からの投資の確保

経営・マネジメント強化
・人事給与とマネジメント
・財務戦略
・その他機能強化

民間企業等
好循環

イノベーション・エコシステムの形成

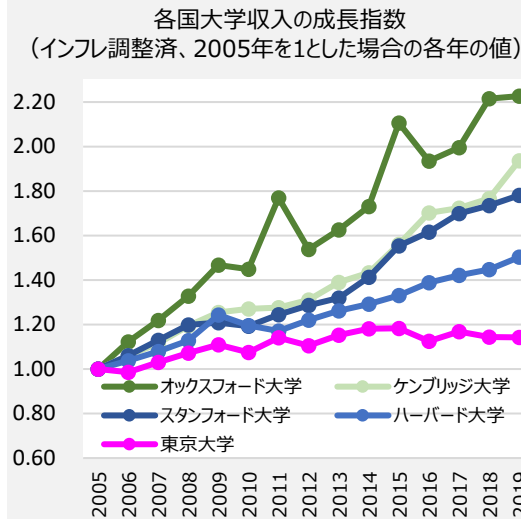
大学・国研等への投資の抜本的拡充 “文部科学省をはじめとする様々な府省庁・民間から基礎研究への投資”

10兆円規模の大学ファンド

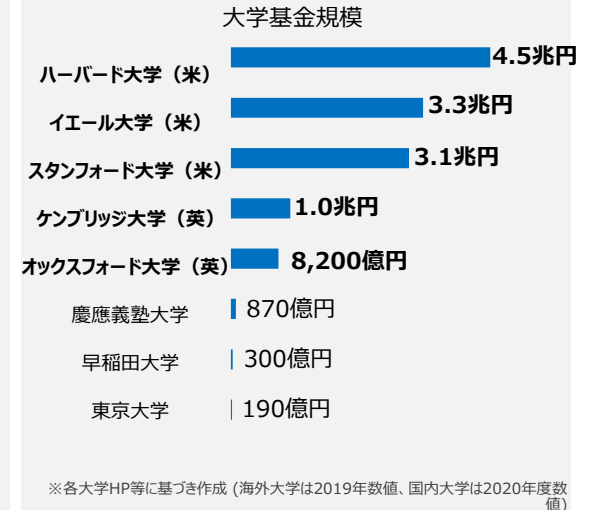
背景・課題

- 近年、我が国の研究力は、世界と比べて相対的に低下。他方、**欧米の主要大学は数兆円規模のファンドの運用益を活用し、研究基盤や若手研究者への投資を拡大。**
- 大学は多様な知の結節点であり、最大かつ最先端の知の基盤。我が国の成長とイノベーションの創出に当たって、**大学の研究力を強化することは極めて重要。**
- **研究力を抜本的に強化し、大学を中核としたイノベーション・エコシステムを構築**するため、これまでにない手法による**大胆な投資**が必要。

欧米主要大学の収入の成長との比較



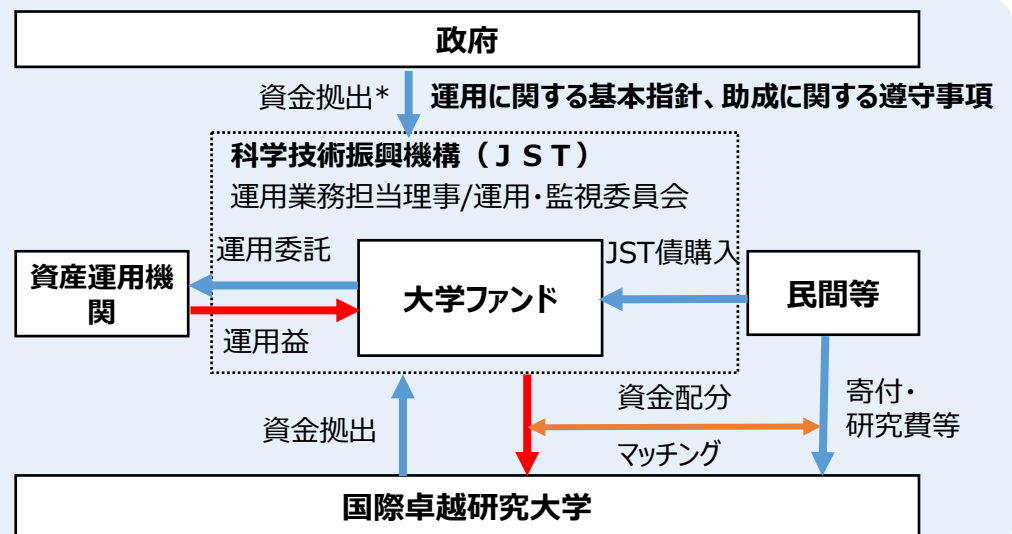
欧米主要大学の基金規模との比較



事業内容

- 10兆円規模の大学ファンドを創設し、**国際卓越研究大学の研究基盤への長期的・安定的な支援を最長25年行う。**
- 令和3年度末に**科学技術振興機構(JST)に大学ファンドを設置し、運用を開始。**

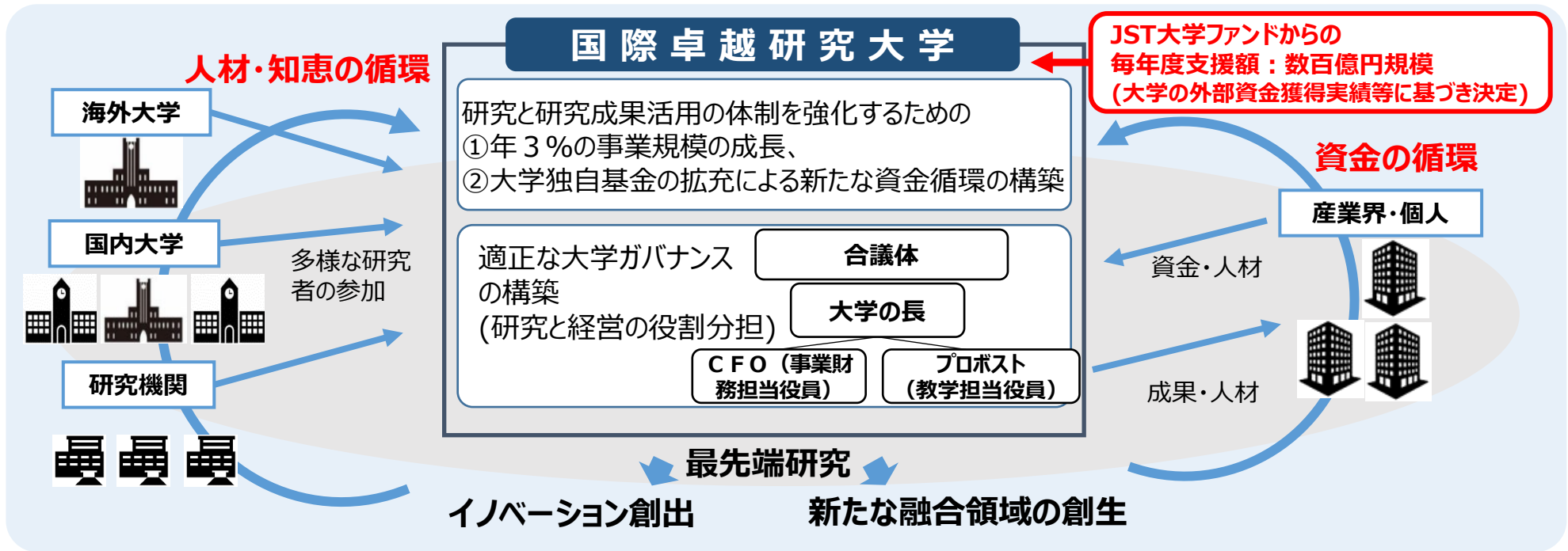
- * 運用元本として、令和4年度までに約10兆円（政府出資金 = 1兆1,111億円、財政融資資金 = 8兆8,889億円）を措置。
- * 令和6年度末時点での**運用資産額は、約11.1兆円。**
令和6年度決算の**収益額は+1,882億円、収益率は+1.7%。**
- * 令和7年度の助成額は、**当期純利益（2,560億円）**に前年度のバッファ（資本剰余金）1,527億円を加えた**4,087億円の1/3（1,362億円）**を上限に別途決定。



国際卓越研究大学制度

制度内容

- 世界から先導的モデルとみなされる世界最高水準の研究大学の実現を目指す。
 - ・ 多様な分野の世界トップクラスの研究者が集まり、活躍するとともに、次世代の研究者を育成
 - ・ 国内外の若手研究者を惹きつける多様性と包括性が担保された魅力的な研究環境を実現し、我が国の学術研究ネットワークを牽引
 - ・ 社会の多様な主体と常に対話し、協調しながら、イノベーション・エコシステムの中核的役割を果たす



- 国際卓越研究大学の選定にあたっては、文科省に設置したアドバイザリーボードにおいて、①国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力、②実効性高く、意欲的な事業・財務戦略、③自律と責任のあるガバナンス体制の観点から、「変革」への意思(ビジョン)とコミットメントの提示に基づき審査。
- 初回公募において、東北大学を国際卓越研究大学に認定し、令和7年度に計画を開始。
- 第2期公募において、東京科学大学を国際卓越研究大学に認定し、令和8年度に計画を開始予定。
京都大学は認定候補として最長で1年間の体制強化計画案の磨き上げを実施、東京大学は審査継続。

【目指す姿】

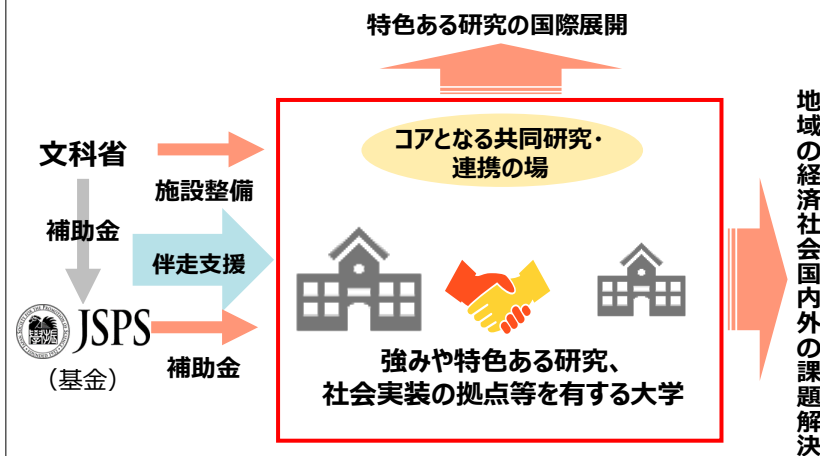
- 我が国全体の研究力の発展をけん引する研究大学群の形成のため、地域中核・特色ある研究大学に対し、強みや特色ある研究力を核とした戦略的経営の下、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップの実現に必要な環境構築の取組を支援

【地域中核・特色ある研究大学強化促進事業】 1,498億円

- 事業期間：令和5年度～（5年間、基金により継続的に支援）
- 単価・件数：5億円程度/年・件×25件 ※別途設備整備費（30億円程度/件）
（令和5年度、令和6年度を通じて25件採択済）
- 支援対象：国公立大学
- 支援内容：研究戦略の企画や実行に必要な体制整備等や設備等研究環境の高度化を支援
- 5年度目を目途に評価を行い、進捗に応じて、必要な支援を展開できるよう、文科省及びJSPSにおいて取組を継続的に支援（最長10年を目的）

【地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業】 502億円

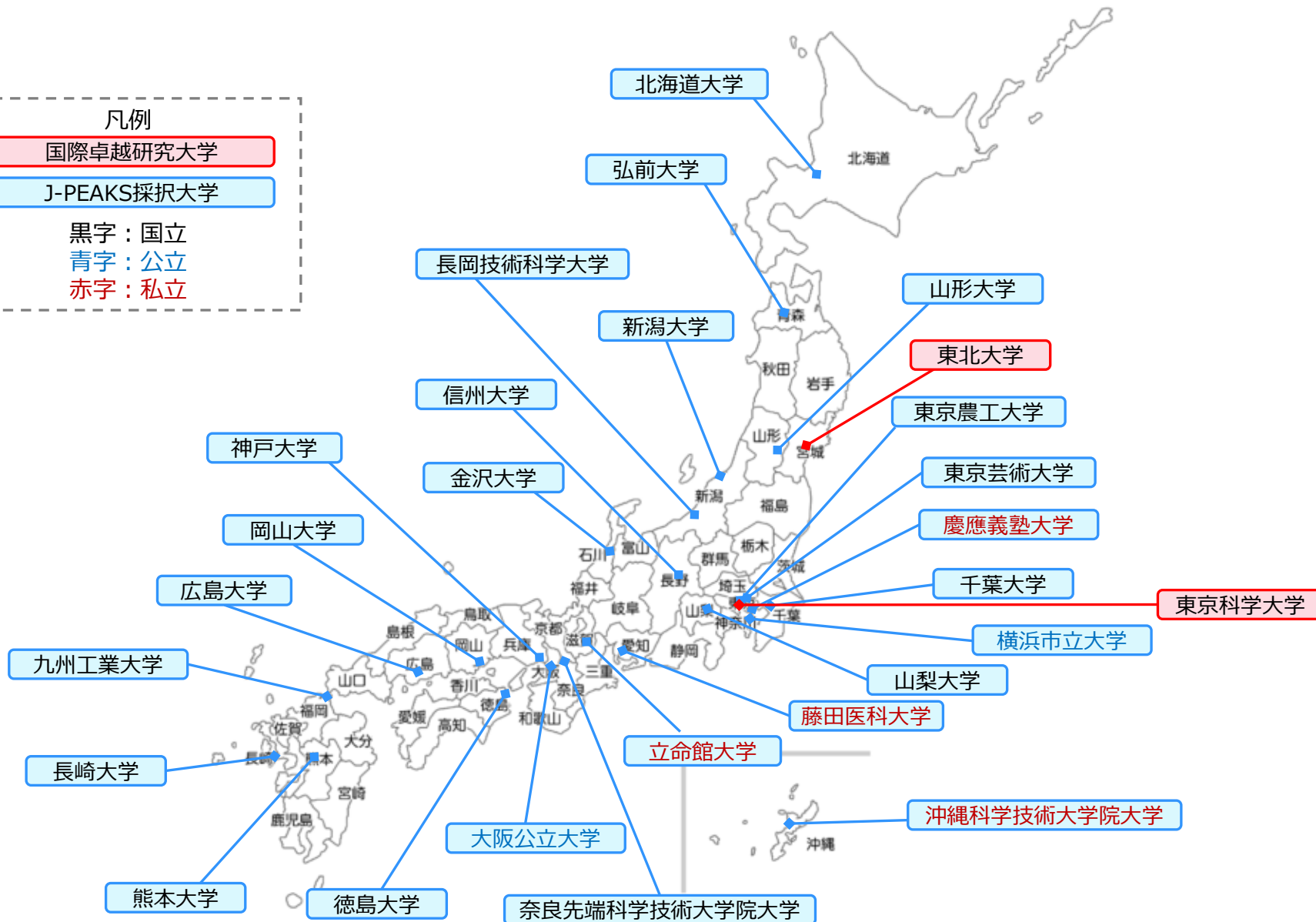
- 単価・件数：20億円程度×25件程度（令和5年度に30件採択済）
- 支援内容：（注：支援対象は「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に同じ）
研究力の向上戦略の下、大学間の連携等を通じて地域の中核・特色ある研究大学として機能強化を図る大学による取組に対し、研究力を活かして国内外の社会課題解決やスタートアップを含めた新産業創出などのイノベーション創出に必要な施設の整備を支援



国際卓越研究大学及び地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）の採択大学一覧

凡例

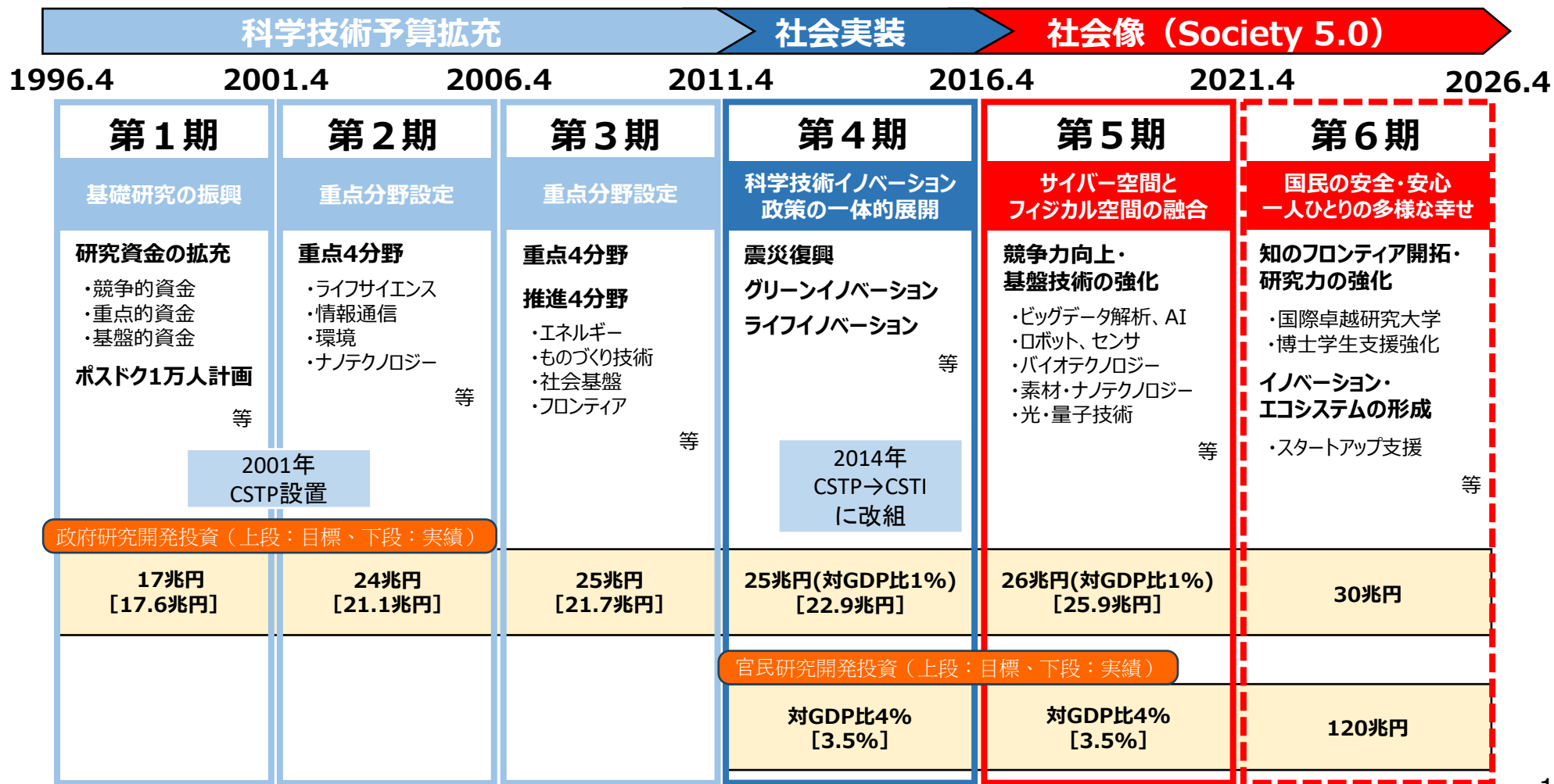
- 国際卓越研究大学
- J-PEAKS採択大学
- 黒字：国立
- 青字：公立
- 赤字：私立



科学技術・イノベーション基本計画について

- 科学技術・イノベーション基本計画は、科学技術・イノベーション基本法に基づき、5年ごとに策定するもの。
- 科学技術・イノベーション政策の方向性を示し、政府が取り組む施策を整理するとともに、5年間の研究開発投資目標を明記。

令和8年3月27日 第7期科学技術・イノベーション基本計画 閣議決定



第7期「科学技術・イノベーション基本計画」のポイント

<現状認識>

科学技術・イノベーションを巡る情勢

- ・ 基礎研究から社会実装までの加速度的短縮と「科学とビジネスの近接化」
- ・ 破壊的技術を巡る実装競争の激化
- ・ 科学技術・イノベーション政策の「安全保障化」と戦略技術の囲い込み
- ・ AIと科学の融合による研究開発パラダイムの転換
- ・ 国際的な科学技術人材の獲得競争の激化

我が国の課題

- ・ 研究力の低下
トップレベル論文数指標の国別ランキング下落：
4位(2000年初頭)→13位(2021-2023年)
博士号取得者数が横ばい：1.5万人(2022年度、米中の1/5以下)
- ・ 研究開発投資の伸び悩み
官民研究開発投資額：20.4兆円(2023年、米中の1/4以下)

<目指すべき未来社会>

- ・ 科学技術・イノベーションの強力な推進により、新たな技術領域における成果創出が進展し、持続的な経済成長が確保され、更なる科学技術・イノベーションを生み出す好循環を作り出し、様々な社会課題解決への道筋が提示されるとともに、国家安全保障が確保されている「豊かで安全・安心な社会」
- ・ 誰もが心身ともに「豊かで」「活力があり」「希望にあふれた」人生を送ることができる、一人ひとりの多様なwell-beingにチャレンジし、実現できる社会

<第7期基本計画の方針>

科学技術・イノベーション政策の転換

- ・ 科学研究と社会実装の一体的推進
- ・ 国家安全保障政策との有機的連携の強化
(デュアルユース技術を含む先端技術の開発研究等の推進)
- ・ 科学技術外交を国家戦略として位置付け

科学技術・イノベーション推進システムの刷新

- ・ ヒト：世界標準の人材システムの構築
(高度な専門性を持った人材が行き交う環境を整備)
- ・ カネ：挑戦とイノベーションを支える投資と成果の好循環
- ・ モノと情報：知と価値を創出する共用基盤の高度化
(モノの「共有」という価値観、開かれた研究・実装インフラの形成)

科学技術を国力の源泉に
イノベーションを生み出すための日本全体の社会システムの
再構築を目指す

トップレベル論文数指標
世界第3位へ

第7期基本計画の6つの柱

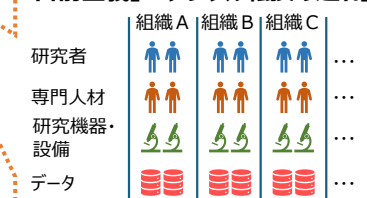
官民の研究開発投資の拡充
政府目標：60兆円※
官民目標：180兆円

※従前の考え方に基つく45兆円に、多様な財源や政策ツールを加えた目標。

- ① 知の基盤としての「科学の再興」
- ② 技術領域の戦略的重点化
- ③ 科学技術と国家安全保障との有機的連携

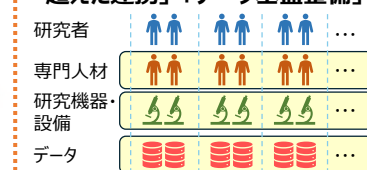
- ④ 産学官を結節するイノベーション・エコシステムの高度化
- ⑤ 戦略的科学技術外交の推進
- ⑥ 推進体制・ガバナンスの改革

現状の課題として、「縦割り」・
「自前主義」・「デジタル転換の遅れ」



推進システムの刷新

「レイヤー構造」・「分野・組織を
超えた連携」・「データ基盤整備」



第7期基本計画の具体的施策（1）

① 知の基盤としての「科学の再興」

「我が国全体の研究活動の行動変革」、「世界をリードする研究大学群の実現に向けた変革」、「大学・国研等への投資の抜本的拡充（様々な府省庁・民間からの基礎研究への投資の推進）」

新たな研究領域の継続的な創造

- ・ 科研費の大幅な拡充等による研究支援、科研費の全面基金化等による研究者の事務負担軽減、研究時間確保
- ・ 創発的研究支援事業、戦略的創造研究推進事業等による支援を強化
- ・ 革新的な新興・融合研究への挑戦促進に向けた研究支援と新たな評価の導入の後押し

挑戦的研究課題件数：13,000件程度（2030年度）
※ 6,500件程度（2024年度）

国際ネットワークの構築

- ・ 優れた若手研究者・学生の海外送出しの戦略的な増加

長期海外派遣数：累計3万人（2026～2030年度）
※ 3,623人（2023年度）

- ・ 魅力あるキャリアパスや雇用機会、トップレベルの研究環境の提示による、優秀な人材の惹きつけ

多様な場で活躍する科学技術人材の継続的な輩出

- ・ 研究者の安定的な雇用の確保、URAを始めとした研究開発マネジメント人材等の高度専門人材の活躍促進
 - ・ 博士人材の育成・確保及び多様な場での活躍促進
- 博士号取得者数：2万人（2030年度） ※ 15,744人（2024年度）
- ・ 次世代の科学技術人材育成の強化（大学の成長分野への組織再編や高専新設の促進、理数的素養を身に付ける教育の質的転換等を通じた「文理分断型の学び」からの脱却、SSHの改革 等）

AI for Scienceによる科学研究の革新

- ・ AI利活用研究（AI for Science）とAI研究（Science for AI）の推進
- ・ AI駆動型研究を支えるデータの創出・活用基盤の整備

研究施設・設備、研究資金等の改革

- ・ 研究設備・機器の組織管理への転換、全国の研究者のアクセス確保
- ・ 産学官の協働による先端的研究設備・機器の整備・共用・高度化の推進
- ・ 学術論文及び根拠データの即時オープンアクセスの推進
- ・ 研究評価の見直し（「国の研究開発評価に関する大綱的指針」の見直し）
- ・ 研究資金制度の継続的改善（競争的研究費の仕組みの検討と展開）

基盤的経費の確保と大学改革の一体的推進等

- ・ ミッションの明確化、機能強化の方向性等の設定、経営戦略の構築、ガバナンス改革の推進の後押し
 - ・ 国際卓越研究大学制度、J-PEAKS等を通じた研究大学群の形成
- 特定の大学の研究時間：50%（2030年度） ※ 32.2%（2022年度）
- ・ 物価・人件費の上昇等も踏まえた、基盤的経費の着実な確保（第5期中期目標期間（令和10～15年度）に向けた国立大学法人運営費交付金の在り方の見直し等）

国立研究開発法人の改革

- ・ 重要技術領域に係る研究の先導、国家的課題への対応を中長期目標へ位置付け
- ・ 研究成果や技術シーズの徹底した社会実装とイノベーション創出
- ・ 研究施設・設備の戦略的な整備・更新等に向けて裁量を持って支出できる基盤等の仕組みを検討
- ・ 大学や企業と連携し、十分なセキュリティ対策を担保したオフキャンパス機能の提供、人材育成等の取組を実施

第7期基本計画の具体的施策（2）

② 技術領域の戦略的重点化

将来にわたって科学技術力を維持・強化するため、限られた政策資源を最大限活用する戦略的な支援を実施

新興・基盤技術領域

総合的な安全保障などの動向・情勢や日本の科学技術の立ち位置も踏まえつつ、急速に発展しつつあり、将来の日本の科学技術をけん引するような潜在力を有する新興技術や基盤技術の領域

国家戦略技術領域

将来の日本の自律性・不可欠性の確保、将来性のある成長産業の創出を進めることを目指し、一気通貫支援によって科学と産業を結び付け、関連する人的・物的資源を国内に確保していくことを目指すべき技術領域

新興・基盤技術領域

- ① 造船
- ② 航空
- ③ デジタル・サイバーセキュリティ
- ④ 農業・林業・水産（フードテックを含む。）
- ⑤ 資源・エネルギー安全保障・GX
- ⑥ 防災・国土強靱化
- ⑦ 先端医療
- ⑧ 製造・マテリアル（重要鉱物・部素材）
- ⑨ モビリティ・輸送・港湾ロジスティクス（物流）
- ⑩ 海洋
- ⑪ 防衛産業

各府省庁の予算措置等の重点的な資源配分（NEDO、JST、AMED等）

- ・ SIP
- ・ ムーンショット型研究開発制度
- ・ K Program
- ・ CREST等
- ・ フロンティア育成・懸賞金事業 等

国家戦略技術領域

- ⑫ AI・先端ロボット
- ⑬ 量子
- ⑭ 半導体・通信
- ⑮ バイオ・ヘルスケア
- ⑯ フュージョンエネルギー
- ⑰ 宇宙

関係省庁と連携した一気通貫支援の実施

- ・ 人材育成の強化
- ・ 研究開発投資のインセンティブ重点化（研究開発税制の拡充等）
- ・ 大学等の研究拠点との連携強化
- ・ スタートアップ等支援、
- ・ オープン・アンド・クローズ戦略策定支援
- ・ 国際連携の強化 等

③ 科学技術と国家安全保障との有機的連携

産学官が連携して、デュアルユース技術の研究開発及び社会実装を実施（安全保障分野におけるエコシステムの構築）

国家安全保障に資する研究開発の推進

- ・ 産学官が連携して、デュアルユース技術の研究開発を推進、人材育成の実施
- ・ 大学や国研等における新たな研究拠点形成や基礎研究支援の強化などの施策の検討
- ・ 安全保障分野における一気通貫支援等を通じたエコシステムの構築
- ・ CSTIと関係機関（内閣官房国家安全保障局、外務省、防衛省等）との連携強化

経済安全保障の観点重視した技術力の強化

- ・ 経済安全保障上の重要技術領域を策定し、戦略的に技術を保護・育成
- ・ 「重要技術戦略研究所（仮称）」の運用開始
- ・ 総合的な経済安全保障シンクタンク機能の構築
- ・ K Program の後継プログラムの在り方の検討
- ・ 「経済安全保障トランスフォーメーション（ES-X）」の推進

研究セキュリティの強化等

- ・ 手順書に基づいたリスクマネジメントの取組の推進
- ・ 研究セキュリティ及び研究インテグリティ確保についての理解の増進
- ・ 大学等におけるサイバーセキュリティ対策への支援

第7期基本計画の具体的施策（3）

④ イノベーション・エコシステムの高度化

研究開発成果の徹底した社会実装に向けて、大学や国研等において得られた新たな「知」からの産業創出や、地域社会・地球規模の課題解決を後押し

産学連携の推進・世界で競い成長する大学の実現

- 各研究大学における、世界トップレベルの研究拠点や、産学官共創拠点等の形成を進め、大学の研究力と経営力の強化を促進
- 民間の研究開発投資を促進

スタートアップ・エコシステムの形成

- ディープテック・スタートアップに対する研究開発から社会実装までの一気通貫支援
- 地域経済活性化とグローバル化を両立するスタートアップ・エコシステム拠点の形成
- グローバル・スタートアップ・キャンパス構想の推進

地域イノベーションの推進

- 地域の産業や資源の特色を生かし、大学、国研等の持つ技術等を取り入れた産業的優位性を獲得する取組、地域の社会課題解決につながる取組の推進

知財・標準化戦略の推進

- 研究開発と知財戦略・標準化戦略の一体的取組・支援

⑤ 戦略的科学技術外交の推進

Science for Diplomacy、Diplomacy for Science 双方の視点から、科学技術外交を戦略的かつ機動的に実施

科学技術を通じたイノベーション創出と国際連携強化、国際協力の推進

- 重要技術領域において、同盟国・同志国との協働の強化・深化による、研究開発段階から実証・社会実装段階までの国際連携の推進
- グローバル・サウス諸国が抱える社会課題解決に向けた、ODAや科学技術協力等を通じた持続可能な発展の支援

国際的なルール形成への主体的な参画

- 重要技術領域における国際的なガバナンス・ルール形成の主導、科学的知見に基づく国際ガバナンス構築の実現

国際頭脳循環の推進

- 多様性ある国際研究環境の整備等を通じた、開かれた科学技術コミュニティの形成

技術の保護と国際連携

- 研究セキュリティの強化を通じた、国際共同研究の信頼性向上、産学官連携の中でのリスクマネジメントの推進

⑥ 推進体制・ガバナンスの改革

科学技術・イノベーション推進システムを刷新するため、関連組織におけるガバナンス改革を実施

官民の研究開発投資の確保等

- 政府研究開発投資額：60兆円※
※従前の考え方に基づく45兆円に、多様な財源や政策ツールを加えた目標。
官民合わせた研究開発投資額：180兆円

基盤的経費の確保と研究大学におけるマネジメント改革

- 大学のミッションの明確化、個性を生かした改革を進め、多様な大学群の形成を促進
- 日本の研究力強化と地方のアクセス確保の両立に向け、高等教育機関の機能分化と規模の適正化を推進
- 基礎研究の充実等を行うため、**国立大学法人運営費交付金の大幅な拡充と在り方の見直し**

CSTIの司令塔機能の強化

- 重要技術領域の特定、調査分析機能、企画立案機能の強化
- CSTI議員以外の関係大臣の参画機会の確保
- 関係府省、研究機関との連携強化
- CSTIと在外公館や関連機関との連携強化による情報収集・分析能力の向上

- 本日決定した第7期『科学技術・イノベーション基本計画』は、科学技術・イノベーションを成長の原動力とし、『強く豊かな日本』を実現するための戦略です。
- 科学技術を国力の源泉に、イノベーションを生み出すための日本全体の社会システムの再構築を目指し、トップレベルの論文数指標において、『10年以内に世界第3位』になる『政府研究開発投資』の総額を60兆円、『官民合わせた研究開発投資』の総額を180兆円に拡充するという『野心的な目標』を掲げました。
- 次の5年間で、基礎研究から人材育成、社会実装、産業競争力の強化に至るまで、高市内閣が一体となって、政策を推進してまいります。
- 優れた科学技術・イノベーションは、『強い経済』の基盤であると同時に、安全保障上の目的を達成するために不可欠な基盤でもあります。
- 本計画では、『技術領域の戦略的重点化』、『科学技術の国家安全保障との有機的な連携』など、科学技術・イノベーション政策の転換を図ってまいります。
- その土台となる『基礎研究への投資拡充』のため、関係大臣は、『運営費交付金』や『科研費』などの更なる充実や、『トップレベルの研究成果と高度専門人材を継続的に生み出すための施策』について、具体化を加速してください。
- 本計画を礎として、イノベーションを通じた経済成長や国際的地位の確保を達成する『新技術立国』を実現するため、赤澤経済産業大臣を中心に、施策の検討を進め、『今年の夏の日本成長戦略に反映する具体的な結論』を得てください。

次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）

令和5年度補正予算額 499億円及び
大学ファンド運用益を活用



現状・課題

- 博士後期課程学生は、我が国の科学技術・イノベーションの一翼を担う存在であるが、近年、「博士課程に 進学すると生活の経済的見通しが立たない」「博士課程修了後の就職が心配」等の理由により、**修士課程から博士後期課程への進学者数・進学率はほぼ横ばい。**
- このため、①優秀な志ある博士後期課程学生への**経済的支援を強化**し処遇向上を図るとともに、②博士人材が幅広く活躍するための**多様なキャリアパスの整備を進める**ことが急務。

事業内容

【概要】

我が国の科学技術・イノベーションに貢献する人材を育成するため、**博士後期課程学生への経済的支援、キャリアパス支援を一体として主体的に行う実力と意欲のある大学を支援。**

<事業趣旨>

1. 主として**日本人学生の博士後期課程への進学**を支援すること。
2. 在学中、**学生が安心して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究活動に専念**できるようにすること。
3. 博士号取得者が、アカデミア・産業界など、社会の多様な場で活躍できるよう、**大学がキャリア支援や環境整備**を行うこと。

【支援内容】

支援対象：90大学

支援人数：**令和7年度は約11,100人**（全学年合計）。

支援単価：生活費相当額・研究費とキャリアパス整備費を合わせて**学生1人当たり、最大290万円/年。**

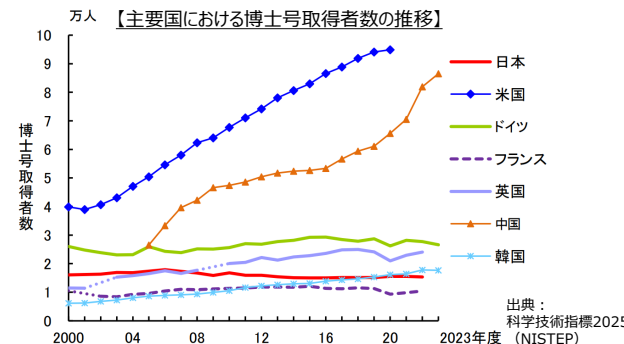
支援の在り方の見直し

【見直し内容】

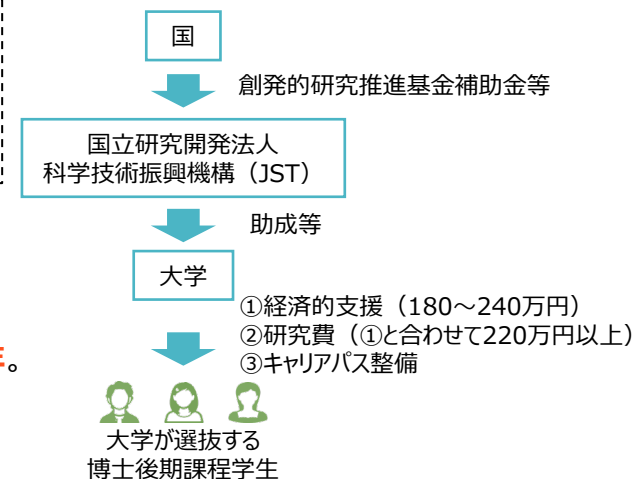
- 日本人学生には、引き続き、経済的支援、研究費、キャリアパス支援を実施。
- **留学生には、経済的支援は行わず、研究費、キャリアパス支援のみ**を実施（既に支援を受けている留学生等は現行制度で支援を継続）。
- これまで支援対象外であった企業に所属する**社会人学生に対して、研究費のみを支援。**

【スケジュール】

- 大学の準備や学生の不利益変更に配慮し、新制度へのスムーズな移行のため、**令和9年度から新制度を本格開始。**
- 制度変更により、大学にて計画の再検討が必要になることを踏まえ、**令和8年2月を目途に大学の再公募**を実施予定。
- 令和8年度は移行期間として、**新制度における支援を大学の自主的な取組として推奨。**



【支援スキーム】



先端研究基盤刷新事業 ～全国の研究者が挑戦できる研究基盤への刷新～

EPOCH: Empowering Research Platform for Outstanding Creativity & Harmonization 令和7年度補正予算額

530億円



文部科学省

背景・課題

- ◆ 我が国の研究力強化のためには、研究者が研究に専念できる時間の確保、研究パフォーマンスを最大限にする研究費の在り方、研究設備の充実など、**研究環境の改善のための総合的な政策の強化**が求められている。特に、研究体制を十分に整えることが難しい若手研究者にとってコアファシリティによる支援は極めて重要であり、**欧米や中国に対して日本の研究環境の不十分さが指摘される要因**となっている。
- ◆ 加えて、近年、多様な科学分野におけるAIの活用(**AI for Science**)が急速に進展する中、高品質な研究データを創出・活用するため、**全国の研究者の研究設備等へのアクセスの確保**や**計測・分析等の基盤技術の維持**は、経済・技術安全保障上も重要である。

事業内容

- ◆ 第7期科学技術・イノベーション基本計画期間中に、我が国の研究基盤を刷新し、若手を含めた全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現するため、全国の研究大学等において、**地域性や組織の強み・特色等も踏まえ、技術職員やURA等の人材を含めたコアファシリティを戦略的に整備**する。
- ◆ あわせて、研究活動を支える研究設備等の海外依存や開発・導入の遅れが指摘される中、研究基盤・研究インフラのエコシステム形成に向けて、産業界や学会、資金配分機関(FA)等とも協働し、**先端的な研究設備・機器の整備・共用・高度化を推進**する。

対 象：研究大学等
採択件数：15件程度(①10件②5件)
事業期間：10年間
【①既存施設】事業費：約30億円※
【②施設新設】事業費：約20億円※
施設整備：約20億円
※当初3年分をJSTを通じて実施

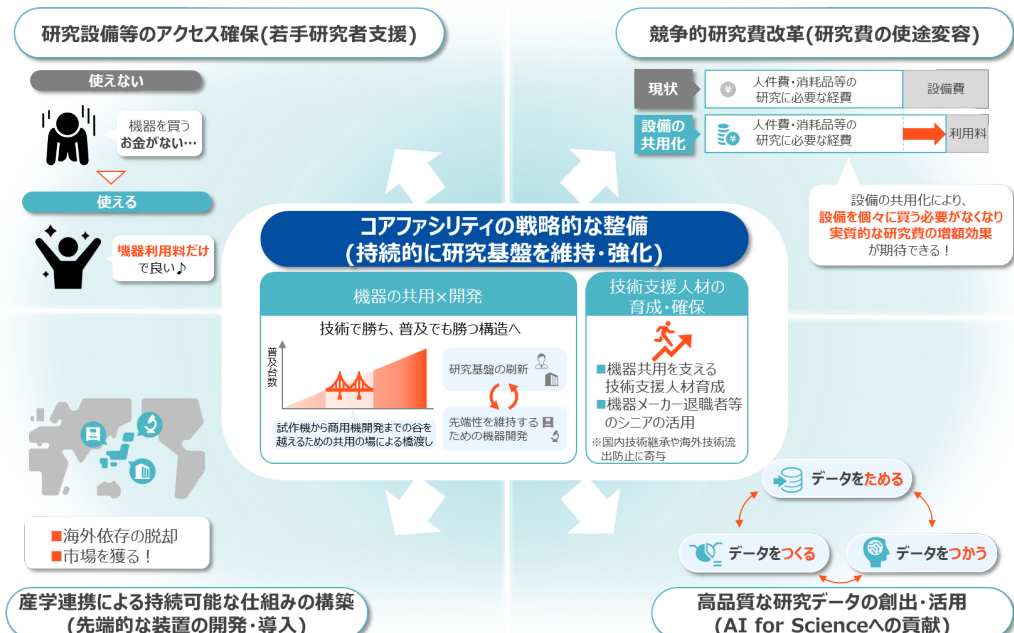
研究の創造性と協働を促進し、新たな時代(Epoch)を切り拓く先導的な研究環境を実現

先端的な装置の開発・導入 × 人が集まる魅力的な場の形成 × 持続的な仕組みの構築

- 研究ニーズを踏まえた試作機の試験導入
- 共同研究による利用拡大・利用技術開発
- IoT/ロボティクス/AI等による高機能・高性能化
- 最新の研究設備や共有機器等の集約化
- 技術職員やURAによる充実した支援
- 自動・自律・遠隔化技術の大胆な導入
- 機器メーカー等民間企業との組織的な連携
- 技術専門人材の全国的な育成システムの構築
- 研究設備等に係る情報の集約・見える化

組織改革 (中核となる研究大学等の要件)

- 組織全体としての共用の推進を行う組織(「統括部局」)の確立
- 「戦略的設備整備・運用計画」に基づく持続的な設備整備・運用
- 共用化を促進させる研究者や部局へのインセンティブの設計
- 競争的研究費の用途の変容促進(設備の重複確認等)
- コアファシリティ・ネットワーク形成の主導と成果の検証 等



現状・課題

- 生成AI、次世代半導体等の**最先端分野での国際競争が激化**。各国は戦略的な科学技術領域に重点投資し、研究開発や人材育成等を実施。
- 我が国は、90年代以降、経済成長が伸び悩み、**産学界双方で、基礎研究力が相対的に低下**（注目度の高い論文数の減少等）。**産業界の研究開発/人的資本への投資、企業・大学間人材交流の低調が課題**。
- 先端分野で、科学技術とビジネス・社会実装が近接化**する中、現状を打開し、産業競争力と科学技術・イノベーション力を向上させる仕組みの構築が緊要。

基本方針・事業内容

- 先端技術分野における産業界・アカデミア双方での優れた人材層の抜本的な充実・強化や、研究開発力の飛躍的向上に向け、国が大学等に対する**戦略的かつ弾力的な人的資本投資を大幅に拡充**。
- これを起爆剤に、産業界において、複数年度にわたる**研究開発や人材育成に対する投資拡大**を実現。
- ✓ 国が設定する**先端技術分野**について、人材育成ビジョンの実現に向けた**研究開発・人材育成計画**を、大学が産業界等と連携して作成。公募を経て、国の基金と産業界との**マッチングファンド**で複数年度にわたり支援。
- ✓ 大学の**人事・給与マネジメント改革**を一体的に実施し、**人的資本への投資の拡充**に向けた好循環を実現。

<3つの基本方針>

産官学による
先端技術分野設定

国・産業界の
マッチングファンド

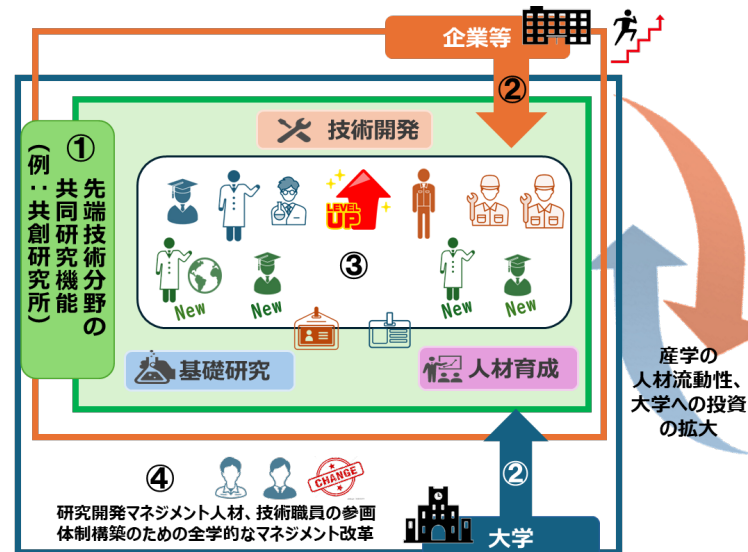
大学の人事給与
マネジメント改革

① 産業・科学に関する**先端技術分野の基礎研究・技術開発・人材育成を一体的に推進・展開**

② **クロスアポイント等**の活用により、**大学・企業双方で雇用・任用し、産学間の強固な人的交流・人材流動を促進**

③ 研究者・技術者の**能力向上**に加え、**国内外の人材獲得や人材育成**を通じて当該分野を牽引する**人材の量的規模を拡大**

④ 大学等の**人事組織改革**や支援体制整備等を通じて、**企業資金を呼び込む「稼ぐ組織」**に転換



事業実施期間

～令和13年度

● 産学の架け橋となる優れた研究者の育成・活躍促進

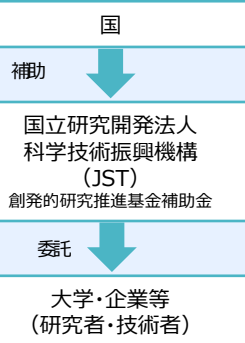
大学等と産業界が連携・協力して、先端技術に係る共同研究を通じ、大学等で活躍できる研究者を育成

● 産業・研究基盤を支える技術者の戦略的育成・確保

大学等と産業界による先端分野の共同研究開発（機器等）を通じて、産業界で活躍できる技術者を育成

● 併せて、大学院等において産学が協働した人材育成プログラムを開発・実施

支援スキーム





背景

- 本事業の開始以降、国際共著論文数や国際会議での発表数が増加するなど、**国内外のトップ研究者による新たな国際頭脳循環が推進されるという好循環の兆し**が顕著に現れている（海外派遣者数・海外からの受入れ者数が事業開始前から3倍以上増）。
- 国内外の研究コミュニティにおいても本事業の認知度が着実に向上し、**多くの海外の資金配分機関（FA）から日本との共同研究に対する要望が寄せられており**、また、世界の地政学的変化に伴い激化する国際的な人材獲得や先端技術獲得の競争を好機と捉え、**この機会を損失することなく更に加速させていくことが重要**。
- 今後、**我が国の研究力の向上と経済安全保障の確保を両立させていくためには**、日本成長戦略会議で示された「危機管理投資」・「成長投資」の戦略分野等において、**欧米等同志国に加え、インドをはじめとする将来のポテンシャルを有する同志国との間での国際共同研究を推進していく必要**。

事業概要

- **対象研究領域及び対象国・地域を設定**した上で、
 - ①既に高い科学技術水準を有する**欧米等同志国**を対象として、最先端の研究開発成果創出を目的とする**大型国際共同研究を戦略的・機動的に実施**。
 - ②近年、研究力・経済力を伸ばし、**同志国として将来のポテンシャルを有するインド**を対象として、**若手人材の招へいを通じた国際共同研究を新たに実施**。
- これらにより、**日本人研究者が世界のトップサークルと基礎研究段階から戦略的に結びつくことを可能とするとともに、両国の優秀なトップ・若手研究者の交流・コネクションの強化も図ることで国際頭脳循環を推進**。さらに、優秀な外国人研究者と**机を並べて研究**を行うことで、**日本人研究者の能力向上**に資する。

事業の枠組み

支援内容

対象研究領域	戦略分野 ※「危機管理投資」・「成長投資」の戦略分野（日本成長戦略会議）や、次期科学技術・イノベーション基本計画の「重要技術領域」に関する議論（内閣府）等を踏まえて設定。
--------	--

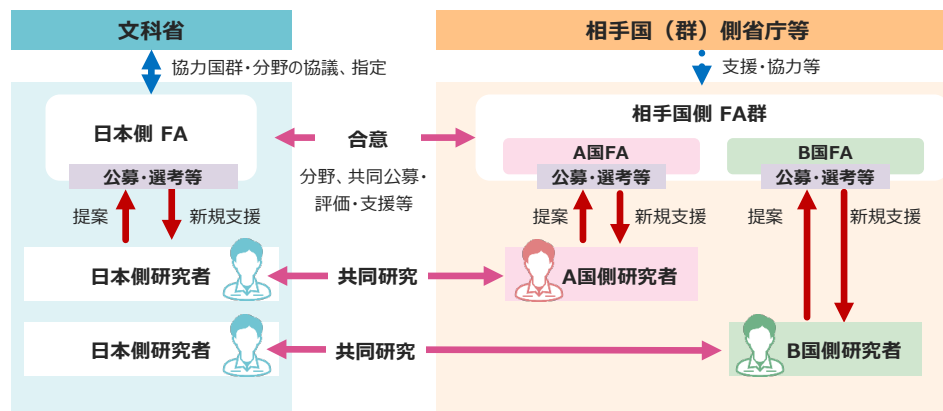
① 欧米等同志国対象（共同公募・単独公募）

支援規模	最大1億円程度 / 年・課題
支援期間	最大5年
支援対象	各国トップ研究者との連携を希望する日本側研究者チーム

② インド対象（招へい型公募・新規）

支援規模	最大2,200万円程度 / 3年・人
支援期間	最大3年
支援対象	優秀な大学院生等を招へいする日本側研究者チーム

基本スキーム例：共同公募（Joint-Call）



支援のスキーム



「グローバル卓越人材招へい研究大学強化学業（EXPERT-J）」について

- **大学ファンドを活用した緊急的な措置**として、優秀な海外研究者・大学院生の受け入れを行う大学を支援する「**グローバル卓越人材招へい研究大学強化学業（EXPERT-J）**」について、**令和7年10月より支援開始**。
- また、本事業開始以降も国際的な研究者の流動性の高まりが長期化していることを踏まえ、国内大学が引き続き機会損失なく海外研究者招へいできるよう、**令和8年度公募を実施し、令和8年4月より支援開始**。
- 事業全体としては、**総額51億円程度**を支援。

令和7年度公募

●採択大学数：11大学（申請：13大学）

北海道大学、筑波大学、東京大学、東京科学大学、金沢大学、名古屋大学、京都大学、神戸大学、広島大学、九州大学、沖縄科学技術大学院大学

●採択研究者数：約70人

令和8年度公募

●採択大学数：3大学（申請：3大学）

大阪大学、岡山大学、熊本大学

●採択研究者数：約10人

（参考）支援内容

- 招へい・受入れを行う海外若手研究者に対する給与・研究奨励費（生活費相当額）、研究費、研究環境整備費用（研究セットアップ費用）
- 大学事務費（招へい・受入れに係る体制整備等）



文部科学省